

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																													
YIC京都ペット総合専門学校		平成25年3月25日		村田 忠男		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																													
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																													
学校法人京都中央学院		平成19年1月22日		井本 浩二		〒600-8236 京都府京都市下京区油小路通塩小路下る西油小路町27番地 (電話) 075-371-4044																													
分野		認定課程名		認定学科名		専門士		高度専門士																											
商業実務		商業実務専門課程		ペット総合科		平成26年 文部科学省告示第6号		-																											
学科の目的		良識ある社会人として必要な資質を持ち、地域社会の発展に貢献できる心豊かなペット業界のスペシャリストとして活躍できる人材を育成する(教育理念)。 具体的には 1. 人と動物の共生社会の実現のために、正しい知識と高い倫理観を持った人材。 2. 即戦力だけでなく、変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を十分持ちながら、常に変遷する社会に対し柔軟に対応するため、就職後も技術を研鑽し知識を蓄え、職業人としての使命感と豊かな人間性を備えた人材。 3. 他業界・他職種とも協調でき、視野の広い大きな心を持ちうる人材。 4. 利他の精神で働くことに社会的意義を感じ、将来ペット業界の指導的立場やリーダーとなりうる人材。 5. ジャパンケネルクラブ公認トリマーライセンス、ジャパンケネルクラブ公認ハンドラーライセンス、ジャパンケネルクラブ愛犬飼育管理士、全国動物専門学校協会サロントリマーライセンス、愛玩動物飼養管理士等、将来の業務に就くために必要な資格の取得。 6. 動物医療に近い部分の該博な知識を有し、業務を通して動物の健康状態のチェック及び異常が発見できる。																																	
認定年月日		平成27年2月25日																																	
修業年限		昼夜		講義		演習		実習		実験		実技																							
2年		66		65		0		85		0		0																							
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数		総教員数																									
160人		157人		0人		5人		16人		21人																									
学期制度		■前期: 4月1日 ~ 9月30日 ■後期: 10月1日 ~ 3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 出席率80%以上、ペーパーテスト及び実技 成績: 秀(100-90) 優(89-80) 良(79-70) 可(69-60) 不可(0-59)																													
長期休み		■学年始: 4月1日~4月6日 ■夏季: 7月24日~8月31日 ■冬季: 12月23日~1月10日 ■学年末: 3月10日~3月31日		卒業・進級条件		卒業の要件: 必修科目1, 200時間(40単位)、選択必修科目720時間(24単位)以上、及び選択科目60時間(2単位)を合わせて 計1, 980時間(66単位)以上の履修。 学費及び教材費等の完納																													
学修支援等		■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との連絡を密にし、本人との面談や場合によっては保護者を含めた面談を行い、状況把握と指導を行う。都度指導記録を残す。		課外活動		■課外活動の種類 学園祭実行委員、京専各体育大会等への参加(バレーボール、卓球等)ボランティア活動(地域清掃、献血、留学生交流)、部活動、同好会活動、オープンキャンパスボランティアスタッフ ■サークル活動: 有																													
就職等の状況※2		■主な就職先・業界等(令和2年度卒業生) ペットショップ、美容サロン、動物病院 ■就職指導内容 担任とキャリアサポート室スタッフを中心に、就職ガイダンス(自己分析、企業研究、プレゼンテーション)や個人面談、企業訪問、企業説明会を実施し、希望する企業への就職をバックアップする。 ■卒業生数: 63人 ■就職希望者数: 62人 ■就職者数: 60人 ■就職率: 97% ■卒業者に占める就職者の割合: 95% ■その他 ・進学者数: 0人 ・帰国者: 1人 ・進路未定者数: 2人 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3		■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>JKC公認トリマーC級</td> <td>③</td> <td>23人</td> <td>23人</td> </tr> <tr> <td>JKC公認ハンドラーC級</td> <td>③</td> <td>6人</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>87人</td> <td>76人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>14人</td> </tr> <tr> <td>AAVサロントリマー検定1級</td> <td>③</td> <td>44人</td> <td>41人</td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①~③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄						資格・検定名	種	受験者数	合格者数	JKC公認トリマーC級	③	23人	23人	JKC公認ハンドラーC級	③	6人	6人	愛玩動物飼養管理士2級	③	87人	76人	愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	14人	AAVサロントリマー検定1級	③	44人	41人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																																
JKC公認トリマーC級	③	23人	23人																																
JKC公認ハンドラーC級	③	6人	6人																																
愛玩動物飼養管理士2級	③	87人	76人																																
愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	14人																																
AAVサロントリマー検定1級	③	44人	41人																																
中途退学の現状		■中途退学者 3名 令和2年4月1日時点において、在学者143名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者140名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の実数 進路変更就職の為、体調不良、/進路変更就職の為、新型コロナウイルス感染拡大の為帰国を希望、学習障害による学習意欲の低下、金銭的な問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 入学前学習教材および実力テストによる基礎学力確認および基礎学力向上支援の取り組み、クラス担任制を設けて学生生活を支援するとともに適宜面談の実施。 hyper-QUアンケートの実施・分析による学生面談の実施、スクールカウンセラーの設置およびカウンセリングによる支援および個別相談窓口の設置等。		■中退率 2%																															
経済的支援制度		■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・特待奨学金制度(一般常識、面接、書類審査によりSABランクの特待生を選抜)初年度学費よりS:学費20万円免除、A:10万円免除、B:5万円免除 ・ファミリーサポート制度(YICグループ校の在学生または卒業生に親、子、兄弟姉妹がいる者に対し初年度学費より5万円免除) ・ひとり暮らしサポート制度(通学困難者で下宿をせざるを得ない者に対し毎月5千円補助) ・就学支援制度(大学・短大・専門学校卒業&見込生、社会人経験3年以上であり、本校に入学を希望する者に対し、初年度学費より10万円を免除) ■専門実践教育訓練給付: 給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載 前年度実績: 2名																																	
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																																	
当該学科のホームページURL		https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/																																	

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

- ・教育目的に沿った教育課程編成、教育水準とする。具体的には、業界・社会の要請を的確に把握し、職業に必要な実践的・専門的な能力を育成するため、企業と密接な連絡をとりつつ、本校が設定した卒業生の技術レベル、および人間力の醸成に注力する。
- ・講義・授業の計画(シラバス)は、本校の教育の基幹をなすものであり、本校の教育理念に沿って教育を行い地域社会、学生、保護者に対して、本校が社会に送り出す学生の質を規定(保障)するものであると位置づける。
- ・入学時の基礎学力不足、および学力差の中で効率的・効果的な授業を行うため、必要に応じ、上記科目とは別に、入学前授業、基礎学力対策特別授業を行う。
- ・人間力、とくにコミュニケーション力、接客技術、その他職業人として必要な働く意欲を高めるための学習は、課外のキャリア特別授業や職業人を招いての講話だけでなくあらゆる行事を含めた学校生活の中で醸成するものである。
- ・斯界のスペシャリストによる職業人講話、技術指導、ボランティア活動、インターンシップ、就業体験その他地域社会・業界との関連により学ぶことの意義と学習意欲の向上につなげる。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

- ・機関企業等からの提言・意見を反映し、職業実践的な教育を行うための、教育課程編成における諮問機関である。
- ・学校運営から独立した機関であり、理事会直結の諮問機関とする。
- ・臨時委員会は、各種検定資格の内容変更・新技術の導入・業界の新しい動向により教育課程編成を変更・追加が必要になった場合などに委員の要請により開催する。必要に応じ当該関係者の意見を聴取することもある。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
西鉢 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	①
田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日(2年)	③
村田 忠男	Y I C 京都ペット総合専門学校 校長		
飛田 隆	Y I C 京都ペット総合専門学校 教務課長		
澤 智春	Y I C 京都ペット総合専門学校 総合支援室長		
山根 大助	Y I C 京都ペット総合専門学校 内部監査・IR戦略室長		
細田 元一	学校法人京都中央学院 本部長		

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合には、種別の欄は空欄で構いません。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(5月、11月)

(開催日時(実績))

第2回 令和2年12月16日 13:30～15:35

第1回 令和3年5月14日 15:00～17:00

第2回 令和3年11月中旬～下旬(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. トリマーコースのカット技術底上げおよび、グルーミング基礎学での技術向上を図る。目標：サロントリマー1級全員取得を目指す。
2. ドッグトレーナーコースにおいて、躰の基本を強化、訓練Ⅰの授業にてマナーチャレンジ（資格）を導入。
3. アドバイザーコースの学びの改善案として動物看護学の基礎知識を踏まえて、いろんな動物の対応を強化。小動物の飼育実習を導入するなど環境の改善や企業と連携した形式で実施。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペット分野の職業に必要な実践的な能力は、業界の最新技術、現場の技術者による実践的技術、業界の動向等、企業等との密接な連携が必須であり、職業教育の質が確保できるとして、適宜企業側から最新の技術教育に対する学校への講師派遣、あるいは企業においての技術教育等を行う。連携の効果をより確かなものとするため、本校と企業、各協会が相互に基本方針を確認し、連携の協定書を結ぶ。具体的な実習・演習計画、授業方法、学修成果の評価、講師（担当者）等については連携の協定書締結時に確認する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

学内の授業・実習などで修得した知識や技術等を企業及び各種団体などの各施設や現場で利活用して実践力を養成しつつ、高い評価が得られる職業社会人として必要なスキルや多様な能力が求められる実態を学生本人が把握をし、そのニーズを見極め自身の醸造と今後の学習において自己課題を設定する機会としている。

実習・演習等においては、各科目のシラバスにより授業を進め、授業終了後には実施した内容をクラウド上の授業報告書に記入し、他の教員との間で情報共有を行う。

各定期試験において、指導者より出題される課題（ペーパー試験、実技試験等）を実施し評価していただく。この評価を基に、単位認定・卒業判定会議にて最終単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
美容Ⅱ	各現場で通用するトリミング技術方法を覚える。新たな犬種についての美容に関する技術を覚える。JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	わんSmile オーナー 生田 友洋
水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践。 水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。	Fish House 代表 細川敏史
ハンドリング	ハンドリングの知識と技術を覚える。 犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。	ORUHA TECKER 代表 山中 美佐穂
家庭犬訓練Ⅰ	犬とのふれ合いから、基本となる家庭飼養で必要なしつけ方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。	バンフドッグスクール 代表 小泉 秀明
訓練Ⅰ	家庭犬を深く知ることで、しつけとは何か、飼い主ができる方法や飼い主が困る犬の問題行動の予防や解決方法を覚える。モデル犬と一緒に犬を飼うために必要なスキルと最低限のしつけ方法を学び、覚える。	アルカドッグトレーニング 菊川 智子

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

変わり続ける時代のなかで、専門的知識・専門的技術を持ち、社会に対し柔軟に対応できる人材を育てるためには、教員自身が常に研鑽を行い、美容分野の技術・知識を深化させるとともに指導力の向上、企業等との連携による研修等を通して時代に即応した実務能力(知識・技術・技能)の習得・向上に努めなければならない。

「学校法人京都中央学院教職員研修規程研修等」に基づき、校内外の研修については、年度計画に基づき学校が学習機会の提供等を行い、また自己申告により日程、費用等便宜を図る。特に授業力、担任力、等の指導力の向上についてはYICグループの人材育成計画に基づく教職員研修規程によりグループ内、校内外で計画研修を実施する。また、職業教育・キャリア教育財団、全国専門学校経営研究会、京都府各種学校・各種専門学校協会(京専各)等が実施する研修にも積極的に参加させる。

美容分野の時代に即した実務能力については、企業等が主催・実施する研修会への他、関係企業との連携や教育課程編成委員会等の意見を反映し、個別企業に教員研修を依頼、また資格取得などを奨励する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「トリミング検定員資格認定研修会・トリミング教員研修会・動物看護師養成研修会」

(連携企業等：一般社団法人全国動物専門学校協会)

期間：令和3年8月予定 → 新型コロナウイルスの影響により、中止 対象：教員

内容：協会主催の各検定についての説明と今後の実施・見直しについて

トリマー検定試験・サロントリマー検定試験概要説明と質問事項に対する回答
動物看護総合実習における学生指導・動機付けと動物病院との連携・確認事項 など

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「新任教員研修」(連携企業等：京都府専修学校各種学校協会/一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団)

期間：令和2年10月10日(土)、24日(土)、11月14日(土) 対象：教員

内容：10/10 学生教職員のための実践心理①②

京都栄養医療専門学校 講師 小松仁美先生/校長 影山弘典先生

10/24 専修学校における職業教育

大阪成蹊大学 教授 東出加奈子先生

11/14 学生教職員のための実践心理③

同支社大学 講師 梁 陽日先生

総合自由科目

大原簿記ビジネス公務員専門学校京都校 専任講師 尾崎尚嗣先生

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「動物専門職のための人と動物の関係学」(連携企業等：一般社団法人全国動物専門学校協会)

期間：令和3年8月27日(金) 対象：ペット分野、動物分野の専門学校教員

内容：愛玩動物看護師が国家資格となり、そのカリキュラム内容が公表された。直接的な獣医療技術とは別に、社会と動物の関わりやそこに生じる多頭飼育崩壊等の問題もその中に含まれる。動物愛護管理法も改正され動物飼育の適正化や動物取扱業の最善化が図られていることから、動物に関する全分野(全学科)の教員に必要な内容である。国際ペットワールド専門学校で、この課題に関する基礎的な知識を提供する講義を20年間実践してきた。その内容と効果を開設する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「愛護・適正飼養学の授業運営セミナー(オンライン)」(連携企業等：公益社団法人日本愛玩動物協会)

期間：令和3年8月5日(木) 対象：教員

内容：「愛玩・適正飼養学」の概要や授業実施に当たってのポイントを解説

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	1 教育理念・教育目標
(2)学校運営	2 学校運営、3 教育活動、9 財務
(3)教育活動	3 教育活動、8 教育の内部質保証システム
(4)学修成果	4 学習成果、8 教育の内部質保証システム
(5)学生支援	5 学生支援
(6)教育環境	6 教育環境
(7)学生の受入れ募集	7 学生の受入れ募集
(8)財務	9 財務
(9)法令等の遵守	2 学校運営、8 教育の内部質保証システム、9 財務
(10)社会貢献・地域貢献	10 社会貢献・地域貢献
(11)国際交流	11 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

「専修学校における学校評価ガイドライン」で示された企業等と具体的な連携の視点から検証した自己点検評価について、企業と学校関係者からなる「学校関係者委員会」の評価・助言・提言を受ける。学校評価委員会においては、本校が行う自己点検評価の結果と根拠を示し、とくに職業実践的な教育活動に適したものであるかなど、当該年度の重点項目を中心に意見等をまとめる。結果を反映した実行計画を作成し、次年度の重点項目を定め、学校教育・学校運営を行い、本校の概念である「地域社会の発展に貢献する、地域の皆さんのための教育機関」の実現に注力する。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
柴山 隆史	公益社団法人滋賀県獣医師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
森 尚志	公益社団法人京都市獣医師会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
西躰 恭子	一般社団法人ジャパンケネルクラブ 近畿ブロック協議会	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	業界団体
田川 直樹	株式会社ひごペットフレンドリー 取締役人事部長	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
塚本 清司	株式会社Lovely 代表取締役	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	業界企業
丸山 帆夏	ダクタリ動物病院 京都医療センター	令和3年4月1日～令和5年3月31日 (2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他() ()

URL:<https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和3年6月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の趣旨に則り、原則として、ガイドラインが推奨する内容（提供する情報の項目例）全てについて、ホームページ上にて情報提供する。教育活動、その他学校運営の状況、これらの結果は、企業、在学生、卒業生、保護者等関係者にホームページなどに公開・提供していることを、学校便り、オープンキャンパス、案内資料、企業説明会などで広く周知し、理解を得る。企業との連携による職業実践教育を行うためには、企業に対して本校の理念、教育活動の理解が前提であり、具体的な連携を計画する際の基本資料として提示・説明することで企業の協力が得られるものとする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育目標
(2) 各学科等の教育	学科紹介、学科別教育課程、各学科科目別シラバス、卒業要件、カリキュラムポリシー
(3) 教職員	教員数、学校組織一覧、
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育、教育課程編成委員会
(5) 様々な教育活動・教育環境	企業連携授業
(6) 学生の生活支援	ひとり暮らしサポート制度、奨学金窓口の設置、個別相談窓口設置
(7) 学生納付金・修学支援	修学支援新制度、財務報告
(8) 学校の財務	財務報告
(9) 学校評価	自己点検・評価結果の公表、学校関係者評価委員会
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL:<https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/disclosure/>

授業科目等の概要

(商業実務専門課程ペット総合科)															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		犬学・猫学	犬と猫の歴史・生態・習性や人との関係を覚える。犬・猫本来の能力について覚える。	1・前	30	1	○			○		○		
2	○		犬種・猫種学 I	犬・猫種の各グループ別、原産国、歴史、サイズなどを覚える。(JKC登録数上位、人気犬種を対象)犬種・猫種による習性や特徴を覚える。	1・前	30	1	○			○			○	
3	○		小動物概論 I	犬・猫以外での動物の生態を学ぶことにより、エキゾチックアニマルと呼ばれる分野の知識を覚える。幅広い動物の生態を学ぶことで、動物のスペシャリストになる。	1・後	30	1	○			○			○	
4	○		水生生物 I	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。	1・前	30	1	○		△	○			○	○
5	○		解剖学	犬・猫を中心とした動物の体の仕組みを勉強し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生態毎の違いを覚える。犬・猫を中心とした動物の体の構造、骨格筋系、呼吸器系・消化器系・循環器系・内分泌系・神経及び感覚器系の機能を理解し、肉食動物と草食動物、生活環境に適した生体毎の違いを覚える。動物の体の仕組みを学ぶことで、飼育方法や病気などの他の分野の基礎を確実に答える。	1・後	30	1	○			○			○	
6	○		公衆衛生	動物とよりよい関係を築く為に必要な、感染症や消毒方法などの知識を覚える。衛生上の危害や発生を防止する分野の基礎を覚える。	1・後	30	1	○			○			○	
7	○		動物関連法規	動物業界、動物医療の関連法規を覚える。仕事をする上での法律を覚える。	1・前	30	1	○			○			○	
8	○		グルーミング基礎学	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。ビジネスとして仕事をしていくうえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚える。	1・通	60	2	○			○			○	
9	○		犬種別トリミング学 I	犬種別のグルーミング方法。トリミングの基礎であるベーシックを学習。短毛犬種、中型犬種、大型犬種など、犬種別のグルーミングを覚える。ブラッシング・爪切り・耳掃除など基本的知識を身につけ、多くの犬種のベーシックができるようになる。	1・前	30	1	○			○			○	

36	○	パピーケアⅡ	1年次の履修内容より深く専門的に、犬の生後1ヵ月から1歳になるまでのしつけ・栄養・健康・飼育上の注意点等を覚える。	2・後	60	2	△	○	○	○	○	○	○
37	○	ハンドリング	ハンドリングの方法と技術を覚える。犬種のコントロール方法を理解し、犬をより深く愛せるハンドラーになる。	2・前	60	2		○	○			○	○
38	○	グルーミングⅡ	各現場で通用するグルーミング技術を覚える。新たな犬種についての美容に関する技術を覚え、1年生次で学んだ技術を後退させない。時間短縮を一層意識し、クリッピング時間の短縮ができる。JKCトリマーライセンス取得試験を意識した各犬種のトリミングができる。	2・通	180	6		○	○			○	○
39	○	愛犬飼育管理学	犬種についての基本的な知識を覚える。	2・後	30	1	○		○				○
40	○	小動物概論Ⅱ	動物全般について（哺乳類・鳥類・爬虫類・両生類・無脊椎動物）小動物全般について広範囲の専門的な知識を覚える	2・通	120	4	○		○				○
41	○	小動物販売士検定	小動物の飼養方法・管理方法を覚え、顧客を対象動物の終生飼養を前提とした説明ができる。様々な動物の知識を広め、覚える	2・前	30	1	○		○				○
42	○	小動物飼育学Ⅱ	ペットショップで取り扱われている小型動物・中型動物（哺乳類・鳥類・両生類・爬虫類等）やふれあい施設で飼養されている動物、日本の野生動物について、より知識を深め、アドバイザーとしての領域を広める。	2・後	60	2	△	○	○				○
43	○	水生生物Ⅱ	アクアリウムの実践に向けての知識を覚える水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる計画を立てる。	1・後	60	2	△	○	○				○
44	○	水生生物Ⅲ	アクアリウムの管理・実践水草の取り扱いと熱帯魚の性質を知り、アクアリウムの組み立てからレイアウトの完成をさせる。	2・通	120	4	△	○	○				○
45	○	動物行動学Ⅱ	犬・猫の様々な情報を読み取り、問題となる行動を観察・記録・分析を実践し、解決方法を導く。生体・生理的状态・環境刺激などの要因を分析したうえで、犬と飼い主の指導・問題行動の改善ができる。	2・前	30	1	○		○				○
46	○	愛玩動物飼養管理学特論	愛玩動物飼養管理士試験【1級】に関連する内容を覚える。愛玩動物飼養管理士1級の合格レベル、知識を覚える。	2・後	30	1	○		○				○
47	○	小動物看護学	動物看護師から、ペットアドバイザーに知っておいてほしい小動物の疾病、それを防ぐための飼育方法等について学ぶ。ペットショップで取り扱う代表的な小動物の生態・習性、飼養・保定方法、代表的な疾病を各小動物ごとに説明できる。ペットショップでお客様に対して、各動物の起こりやすい病気を踏まえて紹介することができる。	2・通	60	2	○		○				○
48	○	犬種・猫種学Ⅱ	各グループの犬種の専門的な知識を覚える。各犬種・猫種の習性や特徴を細かくスタンダードを分析し、覚える。	1・後	30	1	○		○				○

60			○ 卒業研究	プレゼンテーション能力の養成・向上を目指して、基本的な知識を修得し、さまざまな場面で自分の考えをしっかりと相手に伝える積極的な意思表示ができる。プレゼンテーションを行なうために必要な基本的な事柄を覚え、プレゼンテーションの意義・目的、内容、進め方、ツールの活用など、基礎を学ぶと同時に話し方などの口頭表現・身体表現ができる。	2・後	30	1		○		○		○						
61			○ サービス接遇特論	接客対応の基礎 『心づかい』『言葉づかい』などの専門的な実務知識を覚える。専門的な接遇マナーを身に付け、多方面からのスキルを覚える。	12・後	60	2		○			○							○
62			○ ビジネス文章力	美しい字を書く。ビジネス文書に関わる知識・技術を実際に活用できる。手紙・はがきを書くルールやマナーを活用する。社会人として必要なビジネス文書のマナーとルールを活用して社会生活を送る。	12・後	60	2		○			○							○
63			○ 論理的思考力	日常生活に関する題材を取り上げ、論理的な思考力をつけ、数学的な考察を行える。小学校の算数程度の力だけで楽しみながらできる。一般にビジネス、つまり仕事におけるコミュニケーション能力とは論理的な表現力を指し、情報の収集、整理・統合、思考そして発信に至るまで論理的であることが要求されるため、今日、社会人として求められる能力の1つであるコミュニケーション能力を数学的思考を通して身につける。	12・後	60	2		○			○							○
64			○ ビジネス英語	ペットショップ（サロン）等での応対について、様々な場面での英会話を覚え、授業は簡単な会話を中心としペット分野に必要な表現・用語を併せて覚える。外国人を迎えた時だけでなく、多方面で国際的なコミュニケーションが必要になっているため、トリマーやトレーナー、アドバイザー等の活躍する場所も今後海外のペットショップで働いたり、留学したりと多くのステージが考えられる。グローバル時代に羽ばたくために、国際語としての英語を自分のものにする。	12・後	60	2		○	△			○						○
65			○ イベントプロデュース I	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	1・前	30	1					○	○						○

66			○ イベントプロデュースⅡ	具体的なイベント活動の企画・運営を通して企画力・実行力・協調性など社会人基礎力をつける。イベントを企画する段階から時間軸のプロセスを経て、「最終的な目的達成」のために最高のパフォーマンスを発揮できるよう、イベントのノウハウや、プランニング方法等を実際のイベント運営を通して、具体的に学び、これからのイベントの方向性を探っていく。	2・後	30	1			○	○	○			
67			○ 企業研究	就職を希望するペットショップ・動物病院等の調査法、インターンシップの依頼（電話・依頼文作成）、インターンシップに参加する前提とした目的・心構え・ビジネスマナー等を中心に、事前準備を行なう。インターンシップ終了後は、インターンシップを通じて得た知見や経験を体験報告をレポートにまとめ、インターンシップ報告書が作成できる。（交通費等の費用は原則自己負担）自分自身の視点から調査・分析出来る能力を身につけ、就職につなげる。自己の職業適性や将来設計について考える機会を得ることにより、高い職業意識の育成を計るとともに、自ら職業選択の明確な基準軸を見つける。	12・前	60	2	○			○	○			
68			○ ボランティア活動	各分野で活動する実践者によるオムニバス方式での講義をおとして、ボランティア活動の価値、意義、役割、実際の活動等について理解を深めた後に、実際にボランティア活動を行う。施設見学や実際のボランティア体験等を行う予定なので、シラバスの変更（施設との調整などにより）が行われることもある。・ボランティア活動はもうひとつの信頼を育むコミュニケーションであることを覚える・ボランティア活動のリスクなどについても学び、専門職として関わることを前提とした学びの視点、実践活動を通じたスキルや知識を覚える・主体的にボランティアに参加することができる人材になる	12・前	120	4			○	○	○			
合計					68科目	4530単位時間(151単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目1, 200時間(40単位)、選択必修科目720時間(24単位)以上、及び選択科目60時間(2単位)を合わせて、計1,980時間(66単位)以上の履修。 履修方法:ペーパーテスト、レポート、実技テストによる評価	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。